

熊本大学附属図書館報

# 東光原

# 43

Kumamoto University Library Bulletin

November 2005

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

特集

## 図書館と研修

フレッシュ・パーソン・セミナー/係長研修/機関リポジトリ/コンソーシアム

シリーズ 研究の周縁より

### 永青文庫の典籍のこと

最近寄贈された本学教員の著書 ほか



シリーズ 研究の周縁より

## 永青文庫の典籍のこと

徳岡 涼

熊本大学附属図書館では、毎年11月上旬に永青文庫等による貴重資料展を催している。

本年は特に、『古今和歌集』が撰進されて1100年の記念の年であることから、「古今和歌集1100年熊本フォーラム」の一環として「古今和歌集 その豊饒の世界」（11月4日～6日）と銘打ち、最終日には森 正人文学部教授による公開講演会「絵と歌と物語と」を併せて開催した。

期間中は多くの方々にご来館いただき、微力ながらお手伝いさせていただいた実行委員の一人として御礼を申し上げます。

この資料展のための『解説目録』となるパンフレットを作成するにあたり、ささやかではあるが幾つかの発見があったので、その中のひとつを紹介しておきたい。

この資料展には、二十六点にのぼる『古今和歌集』に関係のある典籍類が展示された。

幽斎自筆の『古今和歌集』はもちろんのこと、同じく勅撰和歌集である三条西実隆自筆の『拾遺和歌集』等を並べた。また「古今和歌集の周辺と享受史」と題したブロックでは、室町後期写本である『源氏物語』<sup>よりあいがき</sup>寄合書や『和漢朗詠集注』なども目を引いたことであろう。

ここでは、その同じブロックに展示していた『九州道の記』（目録番号18）及び『吾妻の道の記』（目録番号19）の二点の卷子本について記したい。

両者共に細川幽斎（1534～1610年）筆とされ、室町後期のものとおぼしき逸品である。

『九州道の記』は、幽斎自身の紀行文である。梗概を示す。

天正十五（1587）年三月、九州の島津・大友の

両氏を征伐するために豊臣秀吉は大軍を擁して大坂を出陣、幽斎の嫡男忠興らも従軍した。

幽斎は既に出家した後であったが、無為に過ごすことを憚り、翌月に田辺城から出る。

往きは山陰道で、五月末に博多着。太宰府など諸所を訪ねる内に事が収まり、秀吉は薩摩から帰還する。七月七日に帰陣に合わせて、帰りは山陽道を巡る。

という紀行であるが、折々に詠まれる和歌、連歌が幽斎の文人としての側面を伝えている。

これは、手近なところでは『新編日本古典文学全集48 中世日記紀行集』の中に、本文共々、この幽斎自筆の『九州道の記』を底本として伊藤敬氏の校注・訳で収めてある。このように、この『九州道の記』の存在についてはすでに広く知られているところである。

一方の『吾妻の道の記』は、木下長嘯子<sup>ちやうしやうし</sup>（1569～1649年）の紀行文である。長嘯子は、北政所（ねね）の兄木下家定の子である。

天正十八（1590）年、秀吉の小田原征伐に従った折りのものである。

道程をあらあら進めば、二月二十余日都を出て、草津、鏡山を経、三月に尾張に着く。

更に駿河の国宇津の山に入る（このあたりなど『伊勢物語』を彷彿とさせる）。賤機山では「殿下も御足を休め」とある。

二十二日には府中を出て、清見関、美保の松原、隅田川、富士山の詠歌で終わる。やはりこちらも、折々に和歌が詠まれている。

長嘯子にとっては、この『吾妻の道の記』は初の散文作品であった。後に、長嘯子の和文は芭蕉に認められ、その俳文にも影響を与えたとされて

いる。

ところで、『長嘯子全集』（古典文庫，昭和47年）に『吾妻の道の記』は収められているものの、底本には、後の刊本である『挙白集（長嘯子の家集）』（第八）が用いられている。長嘯子自筆『吾妻の道の記』が存在していたことが確認されるのだが（『弘文荘待賈古書目』34，昭和34年7月に記載がある）、それは現在所在不明らしく、『長嘯子全集』には「所蔵者未詳」と記されており、やむを得ず刊本が底本とされたようなのである。

このような伝本状況の中であって、永青文庫に蔵される長嘯子の師である幽斎の手になる『吾妻の道の記』は、最善本の一つに位置するのではないかと推されるのである。

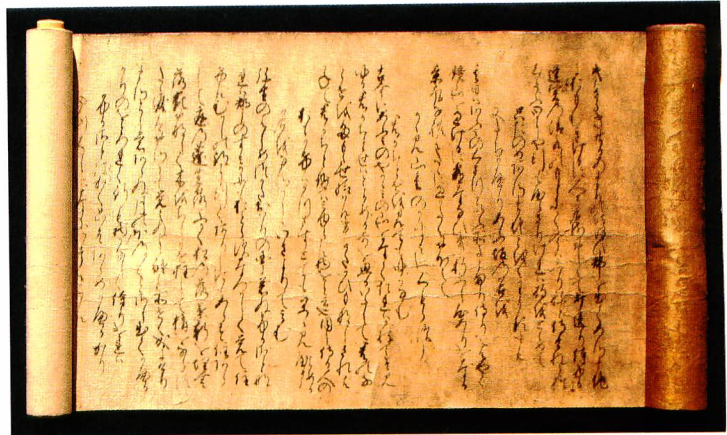
実は、幽斎にも天正十八年の秀吉の小田原征伐に従って書かれた『東国陣道記』という紀行文があり、一方、長嘯子には天正二十（文禄元）年の秀吉の朝鮮出兵—いわゆる文禄の役に従って書かれた『九州の道の記』がある。

そのタイトルからして何とも紛らわしい。このあたりの紛らわしさが、永青文庫に『吾妻の道の記』が蔵されていることがほとんど知られなかった理由の一つなのかも知れない。

あるいは、『吾妻の道の記』の箱書きには『幽斎公御筆 道之記』とあり、それだけでは何を示しているのか分からないということもあったのかも知れない。

北岡文庫の目録（『北岡文庫蔵書解説目録—細川幽斎関係文学書一』熊本大学法文学部国文学研究室，昭和36年12月）においても「作者未考」となっており、その後、この一巻がことさら取り上げられることはなかったように思われる。

さて、少々話題を変えて、現在進行している永



『吾妻の道の記』

青文庫の目録作成のことについても触れておきたい。

この熊本大学に寄託されている永青文庫には「教育・国文学・漢詩・漢文学・思想・武芸・軍記・美術・工芸・芸能・辞書・礼儀・土木・建築」等々、多岐に亘る多くの典籍類が含まれる。しかしながら目録としては、1969年3月に発行された細川藩政史研究会・森田誠一編『永青文庫 細川家旧記・古文書分類目録』が存在するのみである。そこで現在、熊本大学文学部と国文学研究資料館とが共同提携して、附属図書館のご助力を得ながら目録化のための調査を行っている。

70年代に何度か、やはり国文学研究資料館の文献調査委員による調査が行われたものの、これによって全てを調査し終えたわけではない。その後、しばらく休止の期間があり、今回の調査の運びになったというわけである。

この調査を行う文献調査委員は、熊本大学はもちろんのこと、熊本県立大学、鶴見大学、慶應義塾大学等から、それぞれのジャンルにふさわしい研究者によって構成されている。

1年間に3回行われる大がかりな調査であり、1回につき150点から200点近くの典籍類を貴重書庫から出納する。悉皆調査なので、典籍のコンディションの良し悪しにとらわれず調査を進めているが、中には状態の芳しくないものも見受けられ

る。

もちろん幽斎近辺の典籍類や、時代を遡る特に貴重な典籍類は別置されており、上記の典籍類も厳重な室温・湿度管理の元に保管がなされ、劣化が進むことはない。

しかしながら、刊本類や江戸時代写本にも貴重なものは含まれる。あるいは書き入れに重要な情報が含まれるものも存在している。そのような稀観本を中心に、何らかの手だてを講じる必要があると思われる。

また、目録自体に記載されていない典籍があること、同番号に異なる典籍が登録されていること、ジャンルごとに配架されていないことなど、現在の目録、配架番号、及び配置は多くの問題を抱えている。新たな番号を付すべきか、最終的には配置を変えるべきか否か等々の模索は続く。

文献調査委員による年3回の調査のために、夏休みや講義の合間に貴重書庫に入って、継続的に準備作業を行っており、これまでに調査相当部分のおおまかな見取図を作成し終えた。

目録化に相当する典籍を一目瞭然にするため、これまでの配架順に従って、調査すべき典籍には、半紙を八等分して作成した赤の付箋（70年代に調査を終えたものは緑の付箋）を挟み込む。典籍名をその場で書き取り、現在の目録に登録されているか否かを調べ、チェックをして調査に臨む、という手順をとっている。

そして、調査を終了したものには、それぞれの調査委員の方に、随時、緑の付箋を挟み込んで頂くことにより作業の効率化を図っている。

調査開始時には、その典籍類の分量と、多岐に亘るジャンルを前にして途方に暮れるばかりであったが、今は、400点、500点、600点と緑の付箋が増えていくのを楽しみに調査は進められている。

目標とする点数は2500点余りであり、全てを収

録することは困難だとしても、二年後の「仮目録」がひとまずの中間報告としての区切りになるという見通しでいる。

また、目録化に伴い、パソコンによるデータベース化も進めている。

多くの方々のご理解とご協力なくしては、この事業の達成は困難である。今後とも変わらないご支援をお願いしたい。

とくおか りょう

熊本県立大学非常勤講師

### 最近寄贈された本学教員の著書

—中央館ASPECT熊大コーナーをご覧下さい—

西川盛雄（教育学部）

ラフカディオ・ハーン：近代化と異文化理解の諸相 九州大学出版会

山中 進（大学院社会文化科学研究科）・

上野眞也（政策創造研究センター）

山間地域の崩壊と存続 九州大学出版会

高橋隆雄（文学部）

Taking life and death seriously  
bioethics from Japan, Elsevier

大津政康（大学院自然科学研究科）

アコースティック・エミッションの特性と理論：構造物の診断と破壊現象解析 森北出版

坂田正治（文学部）

ゲーテと異文化 九州大学出版会

小野友道（理事・副学長）

Merkel細胞・Merkel細胞癌：この謎多き細胞たち 金原出版 [配架場所：医学系図書館]

特集 図書館と研修：フレッシュ・パーソン・セミナー

## フレッシュ・パーソン・セミナーに参加して

去る9月9日に広島大学で行われた、第1回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナーに参加させて頂きました。この研修は今年度より新たに始められた試みで、中国・四国・九州・沖縄地区の大学図書館等の図書系新規採用職員を対象に、職員として最低習得しておくべき内容を伝達するために実施されたものです。

今回の研修では、テーマを「大学図書館職員事始め：人的ネットワークを求めて」として、大学図書館の概要について学ぶことだけでなく、普段は直接顔を合わせる機会のない、他大学の図書館職員との交流を深めることにも重点が置かれていました。

以下、講演内容について簡単にご報告いたします。

### 基調講演 今日の大学図書館の役割と課題

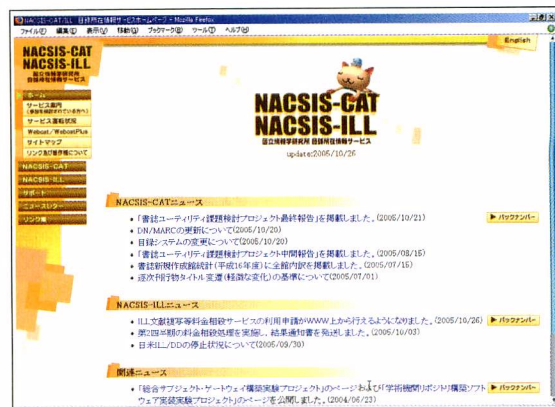
広島大学 片山俊治氏

大学図書館全体の概要説明の後、予算の減少や、電子化への対応の遅れ、司書資格を持った職員の減少など、今日の大学図書館が抱える課題についてのお話がありました。

### 講演①NACSIS-CATに流れる目録思想

岡山大学 北條充敏氏

大学図書館などが共同で利用する目録・所在情報サービスであるNACSIS-CATの概要と、その品質



NACSIS-CAT

## 後藤友紀

低下についてお話がありました。図書館の外側からは意識されにくいですが、図書などの資料を検索して利用できるようにするための目録をとることも、図書館における重要な仕

事の一つです。目録が正確でないと、欲しい図書を見つけれないという事も起こりえます。目録の質を維持していくための、資格や研修の重要性を改めて感じました。

### 講演②図書館カウンターでの接遇

広島大学 山根博氏

利用者への接し方について、実例をふまえてのお話でした。図書の返却に際して「ありがとうございます」と言うのは、昔は利用者でしたが、今は図書館員が言っているという指摘に、サービス業としての図書館を改めて意識しました。コンビニやファーストフード店でも、マニュアルをもとに質の高いサービスが行われるようになった今、利用者は図書館にも同レベルのサービスを求めるようになってきているのかもしれませんが。チェックリストで日頃のカウンターでの対応を振り返り、挨拶や笑顔などの小さな事からでも改善していきたいと思いました。

### ランチ・ミーティング

六人ずつの班に講師の方を加え、昼食を兼ねてミーティングを行いました。私が加わった班では、様々な規模の大学図書館の職員が集まっており、規模による長所短所についてお話を伺うことができました。大規模な図書館では、自分の部署がある部屋にこもりきりで、仕事も一部分だけを専門的に担当するため、図書館全体のことがよく分からない事があるそうです。一方、小規模な図書館では、2、3人で図書の貸出から目録業務まですべてを行わなければならない大変さがあるものの、利用者と親密になりやすいという利点もあると伺いました。また、事務系を経験して図書館に配属された方が多く、外から見た図書館のイメージについてのお話も伺えました。

### 講演③図書館における情報リテラシー活動の実際

山口大学 吉光紀行氏

実際に山口大学で行われた図書館ガイダンスの実施結果を中心としたお話でした。特に、新入生の90%以上が受講するという新入生オリエンテーションの受講率の高さに驚きました。それ以外にも、オープンキャンパスの際に学外者へのガイダンスを行うなど、目新しい取り組みが多く大変参考になりました。

### 講演④ILL・文献複写サービス・著作権処理の実際

徳島大学 折原善彦氏

著作権やコピーに関しての基本的なお話の後、ILL(相互利用)の依頼を断る謝絶率の上昇などに関してのお話がありました。

### 全体討議

質疑応答や、事前アンケートに基づく討論などが行われた後、各班の代表からランチ・ミーティングの報告がありました。

図書館では、図書を購入して利用に供するための目録から、図書の貸出・返却を行うカウンター業務、更には図書館を有効に使っていただくためのガイダンス、図書館間で資料の貸借をする相互利用など様々な仕事があります。私が現在携わっている仕事はその一部分にすぎませんが、今回の研修では図書館の仕事全体について学ぶことができました。

今回の研修には、25大学から36名の参加がありました。全員の方とお話することはできませんでしたが、通常の業務ではお会いすることができない方々とも面識を持つことができ、有意義な研修となりました。

ごとう ゆき

学術情報課電子情報係

特集 図書館と研修：係長研修

## 平成17年度九州地区国立大学法人等 係長研修に参加して

川内野 裕子

平成17年9月13日(火)から9月16日(金)までの4日間、宮崎で行われた「平成17年度九州地

区国立大学法人等係長研修」へ参加しました。

この研修は、九州地区にある国立大学、高専、

青年の家、少年自然の家に勤務する者を対象としており、庶務、会計、学生、施設、図書と様々な職種の69名が宮崎に集いました。

研修内容は次のとおりです。

講義 1：組織人の履歴書

講義 2：職場の労働法基本

講義 3：労働衛生管理

講義 4：セクシャルハラスメント

講義 5：メンタルヘルス

特別講演：焼酎の第三次ブームの背景

(地元産業と産学連携がテーマ)

特別講演：ことばと人間関係

演習：班別討議および全体討議

施設見学

法人化後 2 年目の今年、講義では最初に「組織人の履歴書」で、国から法人へと環境は大きく変わったものの、組織内で自覚を持っての職務遂行には変わりはないという話から始まりました。

次に「労働法」や「労働衛生管理」の講義と続き、「セクシャルハラスメント」ではビデオによるドラマ仕立のセクハラ事件を見た後、簡単な Q & A 問題へ。例えば『Q. 職場で同じ女性をたびたび見つめることもセクハラか?』というような身近なテーマを取り上げての事例説明が行われました。

この質問の答えは「セクハラにあたる」が正解とのこと。つまりセクハラとは決して特異なものではなく、まず相手が不快に思わぬような環境をつくることからと解説がありました。

「メンタルヘルス」は、講師が精神科の先生で、職場で問題となる事例・症例には病的なものから先天的なものまで含まれていると紹介されました。

「特別講演」では、それぞれの道でご活躍の講師がご自分のテーマを大変熱く語られ、時間が短

く感じられた程でした。

「演習」では、事前にテーマが与えられ、研修生はそれに対するレポートを各自宿題として作成、当日は持参したレポートを土台に班別討議を行う方式がとられました。

与えられたテーマは、『10年後の国立大学法人等：事務職員の役割』。

「班別討議」は、69名が4つの班にわかれワークショップ方式ですすめられました。まず各自が持ち寄ったレポートに目を通し、様々な観点から書かれたものを整理し、現状・課題・将来像とまとめてゆきます。設定されていた研修時間内には納まらず、残りは別室に移ってのまとめ作業となりました。

翌日の「全体討議」では、班毎にパワーポイントを使い発表、持ち時間は15分。4つの班すべてが同一のテーマで発表したのですが、各班の視点が少しずつ違うのも興味深く聞きました。

今回研修に参加して、班別討議は勿論のこと、研修時間以外でも様々な意見交換が出来ました。実際に話してみると、直面している課題等は職種を問わず共通している部分があること、また、このような場がなければ通常は話す機会もなかったであろう、他大学の様々な人と話す機会が得られたのも収穫となりました。

かわちの ゆうこ  
学術情報課図書情報係長

### 表紙の言葉

今回の表紙は細川幽斎筆「吾妻の道の記」(2頁参照)です。

特集 図書館と研修：機関リポジトリ

# 千葉大学学術成果リポジトリ (CURATOR) 公開記念シンポジウム参加報告

高木 貞治

2005年9月20日、千葉大学で開催された千葉大学学術成果リポジトリ (CURATOR) 公開記念シンポジウムに参加しました。このシンポジウムの副題は「機関リポジトリの可能性をさぐる—これからの大学における学術研究と情報発信」となっています。シンポジウムの詳細については千葉大学附属図書館のホームページに記録と資料が掲載されていますので、そちら (<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/>) をご覧になってください。

ここでは、特に印象に残った点、シンポジウム外で得た情報等を記します。

まず、「機関リポジトリ<sup>\*1</sup>」は、欧米大学等では不可欠なものとなってきた

いるようです。その提供の多くが図書館を主体にして開発、提供されているようです。そして現在は、Linux上で動く「D-space」、「E-Print」等がオープンソースとして開発されて、これを用いてシステム構築するのが一般的になっています。千葉大学が取り組んだ時期は、これらがまだ開発されていなかったため、メーカーのLinux OS上でOracleをベースとした、独自システムで開発したとのことでした。千葉大学では、開発時はソフトウェア会社とシステム構築したが、その後は図書館

員でメンテナンスしているとのことでした。

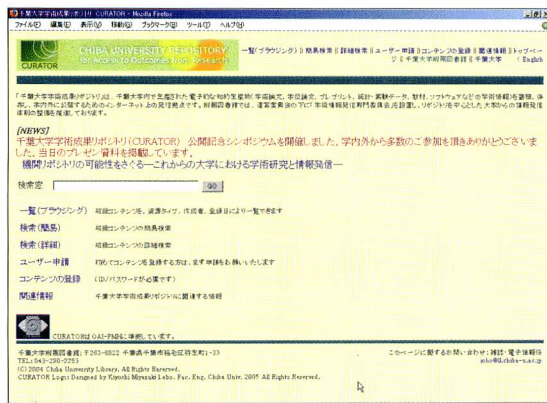
国立情報学研究所 (NII) の尾城課長より、NIIでD-spaceに変わるような、独自の日本の大学向けシステムを作成してほしい、という要望は来ているが、今は開発する予定は無いとのこと。また、そうするのが良いか、サーバー貸しをするような可能性もあるか、考えているとのこと。现阶段では、「D-space」、「E-Print」等のオープンソースの導入支援をするので、そちらで構築して欲しい

とのことでした。

これらのLinux OS上のオープンソースの導入については、まだ開発途上のものであり、欧米での開発であるのでマニュアル等もほとんどが、英語ベースのもので。各大学の図書館職員が自力で導入して、その後も維持管理していくのは正直、荷が重いという印象を受けました。各大学で試験的に取り組みを始めているものの、なか

なか実用ベースでの運用に至っていないというのは、ここが大きな壁となっているのではないかと思います。

しかし、大学からの情報発信が重要視され、その発信基地としての図書館の役割と可能性が認識されはじめ、各大学でも取り組みや検討がはじまっているようです。シンポジウムの後、熊本大学附属図書館が利用している図書館システムを作成している開発元に打診してみました。この開発元も、各図書館からの要請で図書館システムの追加



千葉大学学術成果リポジトリ (CURATOR)



機能としての開発に着手したようです。これらが完成し、各図書館で導入することで、標準的な「機関リポジトリシステム」を導入、運用可能となります。

「機関の規模によっては、リポジトリシステムが構築できない場合もあるのでは？」という会場側からの質問に対して、千葉大学の土屋附属図書館長は、「そういう大学は淘汰されて無くなるだけです」と述べられていました。私の印象としては、今後の流れとして、「機関リポジトリシステム」が図書館パッケージの一つとして、各図書館に普及することによって、小規模な大学でも、このシステムが今後、構築されるのではないかと感じました。NACSIS-CATやILLシステムがそうであったように。

熊本大学附属図書館では、紀要論文の電子化および博士論文の電子化とその公開については、全国に先駆けて取り組み、実現しています。ただ、Web上の資源としては公開しているものの、そのメタデータ<sup>\*2</sup>の自動収集システム（Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting = OAI-PMH）に準拠した仕様ではないため、いわゆる「機関リポジトリ」としての定義に入らないかたちとなっています。

今後、熊本大学附属図書館でも「機関リポジトリシステム」を導入し、熊本大学の学術成果の発信基地となれるように体制を整えていくことが望ましいと考えました。

[注]

**\*1 機関リポジトリ(Institutional Repository)**

機関リポジトリとは、大学および研究機関で生産された電子的な知的生産物を捕捉し、保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫である。学術機関リポジトリに含まれるコンテンツとしては、学術雑誌掲載論文、灰色文献（プレプリント、ワーキング

ペーパー、テクニカルペーパー、会議発表論文、紀要、技術文書、調査報告等）、学位論文、教材などが考えられる。また、学術機関リポジトリの存在意義としては、以下の点を挙げるができる。

- ・大学の研究教育成果に対する視認性とアクセシビリティの向上
- ・社会に対する大学の研究教育活動の説明責任の保証
- ・大学で生み出された知的生産物の長期保存

**\*2 メタデータ(meta data)**

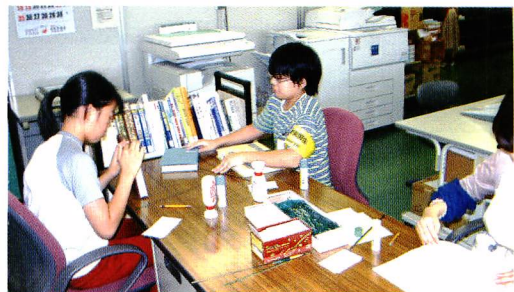
メタデータとは、データについての情報を記述したデータである。膨大なデータの山の中から目的のデータを探し出す手助けとするために作成される。インターネット上にある膨大な情報も、現実には、単純なキーワード検索しかできないため、壮大なゴミの山と称されることもあるが、個々の情報にメタデータを付けることにより、よりデータの性質を的確に反映した検索が可能となる。

たかき ていじ

学術情報課電子情報係長

**職場体験やインターンシップ**

今年も3グループが楽しくしっかりと図書館の仕事を体験されました。



特集 図書館と研修：コンソーシアム

## 第2回中国四国地区コンソーシアム 懇談会(参加報告)

秋吉 陽一郎

来年の電子ジャーナルの各出版社の動向とその準備が気になる頃、中国・四国地区から「九州地区への呼びかけ」があり、「電子ジャーナル契約担当者レベルの職員との懇談」ということで、期待をして参加しました。

日時：平成17年8月25日（木）

場所：広島大学図書館中央図書館

内容：

- 1) エルゼビア社のScopus（スコープス）開発担当者の講演
- 2) 国立大学図書館協会電子ジャーナルタスクフォース主査との懇談

### 1. 講演について

講演会場は、広島大学の職員の方も多数出席の様子で圧倒されました。

Scopus（スコープス）とは、学術論文引用索引データベースの一つです。

講演内容は、引用データベースの開発とその設計思想の話で、「最初から“ユーザー中心設計”である」という説明に終了しました。

- ・ユーザー中心設計のプロセスは、「理解」、「デザイン」、「評価」の3フェーズから構成される。各フェーズの間では、繰り返し作業が行われる。

- ・ユーザー中心設計は、既に認められている研究分野である。
- ・オンライン製品の選択には、使いやすさが大きく影響していることが調査結果からわかっている。
- ・ユーザーの意見に単に耳を傾けるのではなく、行動そのものを観察することが重要である。などなど

すばらしい同時通訳のおかげで、英語のスピーチにもかかわらず、自分が直接、ヒヤリングしているような感じでした。

随分以前に、同じエルゼビア社の医薬データベースであるEMBASEの講演を聞いたことがあります。

その時、同席の方に「すばらしいデータベースなのに、あまり普及していないのは何故？」と尋ねたところ、「同じ医学データベースのMedlineのほうが、価格が安いから」という返事でした。

今後は、エルゼビア社の営業担当者による“ユーザー中心販売”が問われるところではないでしょうか？



広島大学

※11月から熊大でも、Scopusの利用ができるようになりました。同じ学術論文引用索引データベースの Web of

Knowledgeと併用して比較検討する予定です。

## 2. 懇談について

電子ジャーナルタスクフォースとは、国立大学図書館協会を代表して出版社等と協議を行い、加盟館における“より有利な条件”での電子ジャーナル導入を支援している方々です。

主査の土屋先生に拝謁するのは、長期研修以来でした。懇談会は先生の独演会となり、「期待どおり」意味深長な内容でした。

- ・タスクフォースの新体制
- ・コミュニケーションの促進  
タスクメンバーは、各大学電子ジャーナル担当者とのコミュニケーションを求めている。
- ・利用実態の統計  
大学の電子ジャーナルを利用する環境については、良くなっている（悪くはなっていない）。
- ・出版社との交渉  
最終的には、各大学で個別に交渉を行うように、出版社に言っている（はずです）。
- ・今年度の協議内容  
大手出版社（Elsevier, Blackwell, Springer, Wiley）  
Nature  
非営利（BioOne, OUP）  
学会（IEEE, CS, ACS, RSC）  
その他（Proquest, JCS, UniBio）
- ・新しい取り組みについて  
Springer Online Journal Archiveの導入検討

長時間の懇談でしたが、土屋先生は「語り足らず」、参加者は「聞き足らず」で、お互いに「何か物足りない」感じでした。

## 3. 広島大学・その他

郊外のキャンパスなので、広々としています。

池があり、川があり、緑も豊かです。広すぎて、移動するのが大変のようです。

図書館は、中央館、西館（工学系）、東館（教養系）と、同じキャンパスに3館もあります。

利用者にとっては、すばらしい図書館環境です。我々他所の館から見ると羨ましい限りです。

現在、熊大も、僅かばかりですが「増築中」です。工事の進捗を楽しみに見えています。

あきよし よういちろう  
学術情報課雑誌情報係長

## ハーン講演会と資料展を開催

9月26日に五高記念館で、稲垣明男氏（ハーンの孫）をお迎えして「八雲の忌 百年 経たり」と題する講演をお願いしました。また、中央館2階において、最近発見されたハーンの試験問題その他による資料展を開催しました。



## 日誌 (平成17年7月～10月)

- 6/28-7/1 附属養護学校職場体験学習(3名)  
6/29-30 国立大学図書館協会総会(名古屋大学)  
7/2 熊本市インターライブラリー親善スポーツ大会(熊本大学)  
7/7 熊本県図書館連絡協議会理事会(熊本県立図書館)  
7/23 九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会(佐賀大学)  
7/26 第2回医学系分館運営委員会  
7/29 医学中央雑誌ユーザー会(福岡市)  
8/9 熊本大学オープンキャンパスデー  
8/22 第4回係長会議  
8/22 熊本県図書館関係職員研修会(初級)  
(熊本県立図書館)  
8/24 熊本県大学図書館協議会実務者研修会  
(熊本大学)  
8/24-25 地域目録講習会(鹿児島大学)  
8/25 中国・四国地区コンソーシアム懇談会  
(広島大学)  
8/29-9/2 熊本大学インターンシップ(2名)  
9/8-9 第1回大学図書館職員フレッシュパーソン・セミナー(広島大学)  
9/13-16 九州地区国立大学法人等係長研修(宮崎市)  
9/13-16 桜山中学校体験学習(2名)  
9/15 第2回附属図書館専門委員会  
9/16 第53回九州地区医学図書館協議会総会(福岡市)  
9/20 学術成果リポジトリ公開記念シンポジウム(千葉大学)  
9/26 ハーン講演会(五高記念館)  
9/26 熊本県図書館関係職員研修会(中級)  
(熊本県立図書館)  
9/26-10/7 ハーン講演会・資料展(中央館)  
9/29 第5回係長会議  
10/11 第3回医学系分館運営委員会  
10/13-14 基礎セミナーガイダンス「図書館活用  
法」  
10/20 日韓国際シンポジウム(福岡市)  
10/22 ガイダンス・授業支援  
10/26-30 熊本大学上海フォーラム(中国)  
11/4-6 第22回貴重資料展(中央館)

## 人事異動 (平成17年7月～10月)

- 異動(平成17年9月1日付)  
自然科学系事務部理学系総務係  
牛島 直史(図書館サービス課相互利用サービス係)  
■新任(平成17年9月1日付)  
図書館サービス課相互利用サービス係  
杉本 孝之(新規採用)

### 工事は着々と進行中



### 東光原：熊本大学附属図書館報 第43号 平成17年11月刊

- 発行 熊本大学附属図書館  
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号  
Tel. 096(342)2273 Fax. 096(342)2210  
編集 柿本義行 浦田博臣 秋吉陽一郎  
森下和博 坂崎直美 大倉 桂  
URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>